



五  
五

五

僧 5  
34  
6



















王色字がわかかりしと云ふ事。

新車乃紋の事

旧車乃紋の事

のぶとく家と定紋といふりのなうりしやあまより

とも車は文の事

老意の事

六百五の事

あて人の事

ときらる可為事

まじりの事

台記別記藤原多子名字勘丈小抑後宮以テ從草合字  
為名之人贈后茂子茨子尋於皇胤吉例也といかりカ  
を草合とかりまじり

かんでた小紋

勘解由小紋を大後おかんでのさうぢとあり

古々伊傳後

後宗良天皇享禄元年十一月十六日こきうしの伊傳也

逍遙院中より

いりてといふ

俗に小何とぞしてぞうぞおといふ





















志のぶらぢぢぢぢぢ

志のぶらぢぢぢぢぢとつひに物も古と素の河原を右岸のあは  
昭昭乃ほふ陸奥、<sup>レ</sup>志の信夫<sup>レ</sup>昭乃らぢぢぢぢとて、髪をみぢぢと  
糸やうふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
断ふも信夫<sup>レ</sup>昭乃らぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ごう、物<sup>レ</sup>法師のいせ物<sup>レ</sup>法師なまふ、垣<sup>レ</sup>衣草<sup>レ</sup>の形を、紫<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>を  
て摺<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup><sup>レ</sup><sup>レ</sup><sup>レ</sup>とて、陸奥<sup>レ</sup>の石二つある、をへんて  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
の形乃れとて、<sup>レ</sup>法師のいせ物<sup>レ</sup>法師なまふ、垣<sup>レ</sup>衣草<sup>レ</sup>の形を、紫<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>を

志のぶらぢぢぢぢぢとつひに物も古と素の河原を右岸のあは  
昭昭乃ほふ陸奥、<sup>レ</sup>志の信夫<sup>レ</sup>昭乃らぢぢぢぢとて、髪をみぢぢと  
糸やうふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
断ふも信夫<sup>レ</sup>昭乃らぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ごう、物<sup>レ</sup>法師のいせ物<sup>レ</sup>法師なまふ、垣<sup>レ</sup>衣草<sup>レ</sup>の形を、紫<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>を  
て摺<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup><sup>レ</sup><sup>レ</sup><sup>レ</sup>とて、陸奥<sup>レ</sup>の石二つある、をへんて  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
の形乃れとて、<sup>レ</sup>法師のいせ物<sup>レ</sup>法師なまふ、垣<sup>レ</sup>衣草<sup>レ</sup>の形を、紫<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>を





りきど。あぢりくといふ。おのこも。塔やく。漢を。あ  
えし。ふ。砂を。ほみ。あぎて。塔の。ごとく。お。い。く。つ。さ。も。お。く。ま。て。  
ほ。と。ふ。番。士。は。心。を。し。も。と。ふ。な。き。形。し。る。お。じ。師。の。ち。き。こ。り。ハ。  
ま。な。本。ふ。なり。い。を。鳴。者。と。ま。る。を。う。り。て。か。の。山。乃。鳴。海。の。鳴。者。  
と。して。あ。ぢ。り。く。河。難。波。の。川。尻。の。こ。こ。と。い。れ。る。い。と。く。信。  
ら。ま。ぬ。花。の。川。尻。お。く。バ。や。が。て。川。づ。り。と。し。も。つ。べ。ら。い。う。ぞ。り。あ。  
ぢ。り。と。い。い。を。び。さ。と。バ。川。尻。を。お。い。る。る。傍。も。お。く。あ。と。ま。る。も。  
も。が。つ。て。こ。こ。の。う。川。尻。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。

と。ぢ。り。く。お。え。は。心。を。し。も。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。  
と。ぢ。り。く。お。え。は。心。を。し。も。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。  
と。ぢ。り。く。お。え。は。心。を。し。も。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。  
と。ぢ。り。く。お。え。は。心。を。し。も。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。  
と。ぢ。り。く。お。え。は。心。を。し。も。と。い。い。も。お。ぢ。り。く。と。い。い。く。鳴。お。ぢ。り。ハ。  
つ。ら。う。依。を。や。又。お。え。は。心。を。た。だ。か。り。ま。ぬ。あ。げ。し。ん。や。ど。  
し。て。の。お。ぢ。り。を。ま。な。本。の。ハ。體。と。ま。る。派。用。い。く。形。の。し。も。と。い。く。





























死ゆるしといつゝいぢりしのはあもあどいし〜もや〜や  
まやどぬしひあ〜人とは師をぐりかく〜まをれからんを  
依神さあまふまふか〜いしんや、若冲法師ハよの人  
かまこわいあへ神さ者さ学者ハいつりまをま〜ぬま。

みらねむむ

陸奥ちちあもいむ〜美知乃久也。和名抄ハ美知乃於  
久〜りて道〜奥〜いふまは名形也。バ下ハふ〜ま〜ていふ時ハ  
美知乃久乃久也。物と申すの地居書はふも。みらのま  
のといつゝみらののふ〜いして乃久といふのまをりて日  
つ〜ま〜お乃久をまがま〜いし〜ちるべ〜まを

又後りハ、しりのおといやまみらねむを訛ヨクまのま〜陸の  
字。ねの六字とぬり〜用ふ〜り也。六のま〜んは〜人とも  
たあれど、さおを〜び又〜みらのおとい〜とみちとの  
といつゝい〜り〜い〜むりものといひあつゝむげお  
のち〜り〜い〜い〜。

和泉の和字は

和名のいづ〜和泉とかく。和のま〜い〜あをりて依〜れ  
〜ふ〜い〜い〜りつゝま〜思へま〜い  
み〜つや〜和泉とあると上泉カミツイ下泉シモツイといふと、い〜ま〜  
ゆ〜まの名形〜い〜編〜が〜そのまの也。府中村といふ

今と和泉の井とて、いづれもさうなれば、いづれもあつたてし。そと泉、  
井上神社、和泉神社とて、いづれも式少とて、いづれも地ふ並河氏か  
かり。和泉志をいふに、いづれも和泉井をアゲ挙て、其水清且甘と記  
き、いづれも此傳あり上つ代より、いづれも甘かりしを  
いふが、いづれも和泉と書し、いづれも里人あつたて  
し。泉といふは、いづれもあつたて、いづれも國の名ありしを  
いふ、いづれも和泉とて、いづれも文ありしを、いづれも  
いふ、いづれも和泉といふは、いづれも和泉といふは、いづれも  
いふ、いづれも和泉といふは、いづれも和泉といふは、いづれも

かくと曰ふ、いづれも和泉の和の字ありしを、いづれも泉とい  
ふ、いづれも和泉といふは、いづれも和泉といふは、いづれも

鳥羽殿八月十五夜月見侍方侍遊

中右記云、寛治八年八月十五日、天晴、午時許、候、太  
納言殿、御車後、参入鳥羽殿、先、於宰相直廬、休息、具  
申、大納言殿、申、時許、参入大殿、御直廬、則、引、公卿、令  
参、先、御鳥羽殿、南、御所、寢殿、東面、女院同、御也、女房  
南、東面、打出、公卿、座、西、廊、居、饗、饌、人、雖、被、着、無、盃  
酒、儀、已、依、日暮也、寄、御船、於、東、渡、殿、上、皇、令、乘、給、  
大殿、左、大臣、関、白、殿、藤、大、納、言、中、官、大、夫、忠師、左、大、將

忠皇太后宮權大夫公新宰相中將宗此外宗忠并  
左中將有賢依召候御船有別仰帥大納言信經備中  
守政長朝臣可候御船者以御隨身被相尋向已及數  
刻兩人追被參加後出御船御船指四人判官代勘  
解由次官顯隆散位忠清藏人高階為賢源家時布皆  
衣上達部船新大納言忠家右衛門督公藤中納言基忠  
新中納言俊通江中納言匡房左宰相中將仲實右兵衛督  
俊中官權大夫實能以武者所四人為船指布衣殿上人  
船頭中將國信朝臣等四十人許皆布衣此外御隨  
身副小船前行先於御船有御遊藤大納言拍子帥大

納言琵琶左大將筭宰相中將笛宗忠笙有賢和琴皇大  
后宮權大夫并政長朝臣付歌先双調紀伊州席田  
鳥破急平調大平樂破伊勢海迴忽五常樂急帥大  
納言朗詠盤涉調秋風樂三帖青海破蘇合急各及  
數反于時雲收天清月明池上絲竹之調興入幽玄  
此間棹小船但馬守隆時朝臣甲斐守行實朝臣供  
御膳牙盤三前有諸卿傳進供之次第在座進上  
也中宮大夫被候陪膳公卿衝重便居船之緣御盃  
則給大殿大殿指左大臣左大臣指関白次第巡流  
及二獻公卿船朗詠數度夜及三更從御船令上給

了於女院御方面被講和哥題云翫池上月序題帥  
予勤仕講師充大臣為讀師講大納言哥了後頃而  
頗遲是充大臣與關白殿哥次第之度也依大殿  
命先講關白殿哥次充大臣次大殿此間女房從簾  
中被出三首哥書薄樣三重被置扇上扇銀骨畫同  
講之皆以秀哥也人々感歎爰從簾中給御製於關  
白関白傳獻大殿便宜也大殿令氣色講師起座擬  
臣下哥召新中納言通俊卿被講御製誠以優妙也  
不堪差歎滿座諷詠及曉更各分散予今日殿上人  
布衣中着直衣是為辨官人一人臣被着直衣冠時

可無便之故也加之勤講師役間數刻候御前充為  
善耳愚意之案已叶礼法兩殿下鳥帽子充大臣公  
卿冠直衣但此中藤中納言基充宰相中將伊右兵衛  
督俊雅新宰相中將宗通布衣也皇太后宮權大夫公定衣  
冠上皇御烏帽子直衣とくしり堀河天皇御佛母  
了りて多ね殿ふおろし八白川上皇ふおろし大殿とる  
八系極あま白師実公在大后八係後房公実白々系極殿のい  
後二條師通公此内大臣のりて実白わが在大后の次ふ立後  
了りて中右記中中右記中在大后忠公日記了寛治元年  
四月とる保延元年十二月まで此事記了りて合せ七十

巻のついでにむすぶものゝ如くはるるなり。本ハ瀬<sup>カチ</sup>も所々あり。そ  
そのうち合きハいまだ見えぬ。寛治乃<sup>ノ</sup>の所々宗忠公のいすゞき  
て殿上人<sup>ノ</sup>のむせしやどはすじ。

立田山小ぢり村

いふ人太和より難波へもいづくへも下はる城<sup>コエ</sup>。立田山ハ今  
くがり峠しといふ流乃<sup>ノ</sup>の所々宗九のむす小鞍嶺<sup>コザラミ</sup>を  
いふむし又<sup>ノ</sup>のむせ今<sup>ノ</sup>のむしとこもむせむしその人  
そ乃<sup>ノ</sup>のりふ小倉村といふとあるむせむせとくんとハ思ひ  
ぬが。立田神社<sup>ノ</sup>のむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
人乃<sup>ノ</sup>立田山をぢりむせむせむせむせむせむせむせむせむせ

かろといひ。又此<sup>ノ</sup>の師のいせぬがなりけむこのむせむせ附<sup>ケ</sup>。  
上田秋成といふ人乃<sup>ノ</sup>考へふもむせむせむせむせむせむせむせ  
きやんといふむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
そのむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
むせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
立田川といふ名ハ万葉集にありむせむせむせむせむせむせむせ  
かろといふ今<sup>ノ</sup>の宗<sup>ノ</sup>のむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
ハ異<sup>ト</sup>といふむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせ  
むせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせむせ





